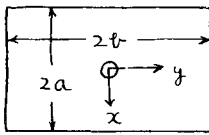


Raft Found. の理論的研究の一部として、まず底を薄い平板とみた時の曲りの問題を取扱ふ。こゝではその基本的解について報告する。基礎地盤が砂と粘土の中間のものである。地盤反力係数( $k$ )は基礎全体にわたり一定と考えてよいようである。従つて板の曲りの式は

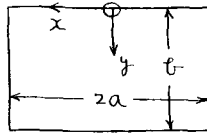
$$\Delta \Delta w + \delta^4 w = q(x, y)/D \quad \delta^4 = k/D \quad (1)$$

こゝに  $w$  は下向きに板のたがひ、 $D$  は曲げコワサ、 $q(x, y)$  は分布荷重強度である。

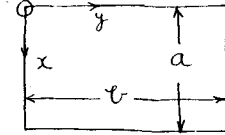
与ふる境界条件としては、自由(F)支持(S)固定(R)の三種に限るとし、F, S, R の配位が矩形板の中心軸に対して対称か否かに応じて座標と寸法を法図に示すごとくする。



$x, y$  につき対称



$x$  のみにつき対称



$x, y$  につき非対称

図 1 のとおり Poisson 比を  $\nu$  とすると

$$\begin{array}{lll} x = C \text{ が自由} & w_{xx} + \nu w_{yy} = 0 & w_{xxx} + (2-\nu) w_{xyy} = 0 \\ x = C \text{ が支持} & w = 0 & w_{xx} + \nu w_{yy} = 0 \\ x = C \text{ が固定} & w = 0 & w_x = 0 \end{array}$$

$q(x, y)/D \equiv p(x, y)$  を変数について偶函数から  $e$ , 奇函数から  $o$  の脚符号をつけて表わすと

$$\begin{aligned} p(x, y) &= P_{ee} + P_{oe} + P_{eo} + P_{oo} \\ &= \frac{1}{4} \{ \{ p(x, y) + p(x, -y) + p(-x, y) + p(-x, -y) \} + \{ p(x, y) + p(x, -y) - p(-x, y) - p(-x, -y) \} \\ &\quad + \{ p(x, y) + p(-x, y) - p(x, -y) - p(-x, -y) \} + \{ p(x, y) + p(-x, -y) - p(x, y) - p(-x, y) \} \} \end{aligned}$$

なお  $\psi(x, y) = P_{ee} + P_{eo}$ ,  $\varphi(x, y) = P_{oe} + P_{oo}$  はそれぞれ  $x$  につき偶、奇、 $y$  につきは任意変函数である。かく  $p(x, y)$  を分解し、その偶、奇に応じて Fourier 展開する。

$$p(x, y) = \sum_m \sum_n P_{mn} T_1(\alpha_m x) T_2(\beta_n y)$$

こゝで  $T_1, T_2$  は  $\sin$  または  $\cos$  を意味し  $\alpha_m = m\pi/2a$ ,  $\beta_n = n\pi/2b$  ( $m, n = 1, 3, 5, \dots$ ) である。すると (1) の特解 ( $w_s$ ) は

$$w_s = \sum_m \sum_n W_{mn} T_1(\alpha_m x) T_2(\beta_n y) \quad W_{mn} = P_{mn} / \{ (\alpha_m^2 + \beta_n^2)^2 + \delta^4 \} \quad (2)$$

であり (1) で  $q(x, y) \equiv 0$  とした  $\Delta \Delta w + \delta^4 w = 0$  にあつての齊次一般解 ( $w_o$ ) は

$$w_o = \sum_n A_n(x) T_2(\beta_n y) + \sum_m B_m(y) T_1(\alpha_m x)$$

$$\text{ただし} \quad A_n(x) = E_n \operatorname{Ch} c_n x \cos d_n x + F_n \operatorname{Sh} c_n x \sin d_n x + G_n \operatorname{Ch} c_n x \sin d_n x + H_n \operatorname{Sh} c_n x \cos d_n x \quad (3)$$

$$B_m(y) = K_m \operatorname{Ch} f_m y \cos g_m y + L_m \operatorname{Sh} f_m y \sin g_m y + M_m \operatorname{Ch} f_m y \sin g_m y + N_m \operatorname{Sh} f_m y \cos g_m y$$

こゝに

$$\left. \begin{array}{l} c_n \\ d_n \end{array} \right\} = \sqrt{\frac{\pm \beta_n^2 + \sqrt{\beta_n^4 + \delta^4}}{2}} \quad \left. \begin{array}{l} f_m \\ g_m \end{array} \right\} = \sqrt{\frac{\pm \alpha_m^2 + \sqrt{\alpha_m^4 + \delta^4}}{2}}$$

である。従つて求める  $w$  は、

$$w = w_s + w_o \quad (4)$$

と表えられる。

境界条件の配位の組み合わせは次の21通りが考えられる。次表には  $x=+a$  の辺より反時計方向に廻った時に条件に従い F, S, R で表わす。すると

(I) (SSSS) (SFSF) (SRSR) (SSSF) (SSSR) (SFSR)

(II) (FFFF) (RRRR) (FFSS) (RRSS) (RRRS)

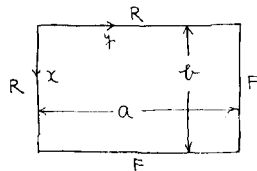
(FFFS) (FRFR) (FRSR) (FSFR) (RFFS)

(III) (RRRF) (FSKR) (FFFR) (RFFS)

(IV) (FFRR)

のごとくである。こゝで4つに大別してあるが(I)では(3)に含まれる  $E_n \sim N_m$  の未知常数を定めるのに陽に(厳密に)できるのに反して(II)以下は  $E_n \sim N_m$  の中の2, 3, 4個が無限級数で含まれるそれぞれ2, 3, 4群の連立方程式を解かねばならぬものである。

なお二軸対称の場合は各組に応じて Pee, Poe, Peo, Poo の4種の所定形に対して次の解を導く要があり、一軸対称のものでは  $\psi(x, y)$ ,  $\varphi(x, y)$  の2種に対する解の集合で得られる。また非対称の時には  $p(x, y)$  のように扱えばよい。



たの場合の一例を示す。

$$w_3 = \sum_m \sum_n W_{mn} \sin \alpha_m x \sin \beta_n y$$

$$W_{mn} = \frac{4}{a^2 \{(\alpha_m^2 + \beta_n^2) + \gamma^2\}} \iint_0^a \int_0^b p(\xi, \eta) \sin \alpha_m \xi \sin \beta_n \eta d\xi d\eta$$

$$w_0 = \sum_n A_n(x) \sin \beta_n y + \sum_m B_m(y) \sin \alpha_m x$$

$x=0$  で  $w=0$ ,  $x=a$  で  $w_{xxx} + (2-\nu)w_{xyy} = 0$  故に

$$A_n(0) = 0 \quad \{A_n''' - (2-\nu)\beta_n^2 A_n'\}(a) = 0$$

これに(3)を用いて  $E_n \sim H_n$  の中の一定数を消去すると  $A_n(x) = E_n \varphi_n(x) + F_n \psi_n(x)$  (こゝで  $\varphi_n, \psi_n$  は双曲線函数と三角函数の複合の一次結合) で与えられ  $B_m(y) = K_m \bar{\varphi}_m(y) + L_m \bar{\psi}_m(y)$  も同様成立つ。

こゝで例えば  $x=0$  で  $w_x=0$  を考えると

$$\sum_n A_n'(0) \sin \beta_n y + \sum_m B_m(y) \alpha_m + \sum_m \sum_n \alpha_m W_{mn} \sin \beta_n y = 0$$

であるが、今求めた  $A_n(x)$  を入れ、さらに  $B_m(y)$ , すなわち  $\bar{\varphi}_m(y)$ ,  $\bar{\psi}_m(y)$  を  $\sin \beta_n y$  に因する Fourier 展開をおこなって  $\sum_n \bar{\Phi}_{mn} \sin \beta_n y$ ,  $\sum_n \bar{\Psi}_{mn} \sin \beta_n y$  と表わせば

$$E_n \varphi_n'(0) + F_n \psi_n'(0) + \sum_m (K_m \bar{\Phi}_{mn} + L_m \bar{\Psi}_{mn}) \alpha_m + \sum_m \alpha_m W_{mn} = 0$$

となる。こゝに  $n=1, 3, 5, \dots$

このように式は他に3ヶ出来るからこれら  $E_n, F_n, K_m, L_m$  を定める4群の連立方程式を解く。

本研究に関して所指導を賜つてゐる東京大学 最上教授に深謝の意を表す。